

フィールドノート

2012年9月7日

京都大学農学博士、同名誉教授

古川久雄



(経歴は別紙の通り)

以下は、私が、1984年7月21日、22日、1981年1月5日にプカンバルからコトパンジャン地域等にかけてフィールド調査を行った際の記録を起稿したものです。なお、1984年7月21日、22日のフィールド調査には大木昌氏ほかと同道しており、添付の写真は大木昌氏が撮影したものです。

リアウ (1984年7月21日、22日、1981年1月5日の記録。〈 〉は起稿時の加筆)

1984年7月21日 Pakan Baru 南東

Pakan Baru

リアウ大学へ行く。大木氏の NAU 時代の友人 Auda Murad 氏に会う。その友人 Asna Ma'Amoen 氏にも会う。この人は東京水産大学と連絡とっている。  
統計局で統計書を買う。深見、大木、古川の共通費から払う。

Kampar 川下流部へ

Pakan Baru を南へ出る。

73410.0km 平坦台地にアランアラン(*Imperata* 属、チガヤ)、*Melastoma* (ノボタン属の灌木) の草原と、8メートル程のゴムジャングルが混在。更新した若いゴム林がある。

— 泥炭地が入り込む。切り割りでは泥炭厚さ1メートル、その下は台地の白い粘土。

11.4km ミカン園とサゴ林。

12.3km 飛行場道を右に見て緩く上がる。

13.2km 上がると緩波状丘陵、頂部は平坦な台地、そこに平床家<ジャワ移民か>の村が延びる。村周りはジャンプー、グアヴァ、ランブータン、ココヤシが白砂に植えこまれる。

17.0km 波状地にランブータン多い。

19.0km 草原と二次林。

20.8km サゴヤシが増える。

20.9km 小川越える。岸に8メートルのサゴヤシが並ぶ。

21.1km 小川の水やや黒い、中に jeruju (*Acanthus* 属、ハアザミ、塩湿地の植物) が立つ。

満潮時に汽水が遡ることがある証拠。少し上がると草原、小屋が点在。

21.8km 伝統的高床家の村。

22.5km Talatakbuluh 村、Kampar Kanan 河の自然堤防上に長く延びる。川幅 100 メートル、岸崖が 2 メートル露出。船着き場でゴム塊を水に漬けている。砂取りもしている。ゴムの男に聞く。

1 水位は 2 月が最高。

2 以前は河川交易盛んだった。いぶしたゴム、ダマール (*Agathis* 属樹木の樹脂) を 15 トンの木造船で片道 1 週間かけてシンガポールへ運んだ。今は kapar motor 船で油をシンガポールへ、生ゴムを Pakan Baru へ運ぶ。いぶしゴム運びは 1955 年まで行われた。今は Pakan Baru の工場はいぶす。

23.9km 河北側を西へ行く道は車が通れないと聞く。

24.1km 東へ自然堤防地帯に行く。長い村が続く。バナナ、ミカン、果樹が多い。ジャンビ州クンペ河沿いや南スマトラ州コムリン河の自然堤防の景観に酷似。被陰樹デイゴの下にコーヒーも植えている。村人がヨシを刈って葉を運ぶ、家畜の餌にする。ゴム林を切ってミカン、バナナ園地に変える。

27.6km 小川越える。

27.8km 高床家の村、ランブータン園広い。ゴムのヤブを切ってバナナ園、pinang (*Areca* 属のヤシ、ピンロウ) 園に変える。

30.4km Lubuksiam 村。高床家が並ぶ。

31.6km 小川を越える。高床家は屋根がミナン式に反り返っているものもある。床下に割り船を置く。サゴヤシ多い。水田は対岸にあり、こちら岸にはないという。

32.0km 車道終わり、戻る

39.9km Talatakbuluh 村へ戻って北へ。

40.6km 小川を越える。

41.1km 小川を越える。水黒い。

41.1km 小川を越える。水黒い、泥炭地帯。

42.6km 丘陵に上がり、平坦台地。

46.4km 東へ枝道に入る。Kampar Kanan 河北側を西北—東南に延びる緩波状丘陵、そこにトランスミグラシ (政府移民) の新村、Desabaru。家は平床。灰色ポドソル、腐植層 20 センチメートル。

49.2km 比高 3 メートルの谷、底に小川。越えてキャッサヴァの広いジャワ移民村。

50.2km 同様の谷に小川。白く漂泊された土が露出。ジャワ移民の村が点在、キャッサヴァとアランアラン草原交互にある。ランブータン園もある。

53.9km 低窪地にヤブ、周囲のアランアラン草原を焼く。

54.2km ココヤシ園地少々。

55.6km ジャワ移民の村続く。ヤブが広い。

- 56.4km 広いコシダの草原、キャッサヴァ跡地だ。
- 58.3km 平床家の村。
- 59.2km パイナップル畑広い。Buluhcino 村。Kampar Kanan 河に接近。
- 60.1km 谷沿いにサゴヤシ林、アランアラン草原と混在。土は黒い腐植層の下に黄褐色粘土。
- 64.1km 枝道を右折。
- 64.8km 高木の泥炭湿地林が左右に出る。
- 66.4km 丘陵台地が湿地林に突っ込んだところ。この道、Langgam まで続くが、車は難しい。Pakan Baru へ戻る。

## 7月22日 Pakan Baru - Muara Takus 往復

73500km Pakan Baru の Widiya ホテル出発。1981年1月に来た時、Pakan Baru の町は川港の周りに中国人街があるぐらいで、小さな町だったが、急速に拡大している。

8.5km Bukit Tinggi 道に入る。比高4メートルの平坦台地。右は丘陵になり、道近くはヤブ、その向こうは高木林。乾季で、地面は乾いている。

11.7km 飛行場道分かれ。平坦台地に平床家の村、Simpangbaru、果樹が多いが、村を外れるとアランアラン草原。

17.2km ヤブを伐ってトウモロコシを植える。

20.6km *Melastoma*、*Mallotus* (アカメガシワ属) の多いヤブになる。それを開いてミカン、パイナップルを植える。泥炭だ。サゴヤシが立ち、泥炭湿地林になる。【写真1、2、3】

— パイナップル売りの小屋が並ぶ。一軒で止まり、2個200ルピアで買い、皮をむいてもらって食う。この男、5年前にミナンカバウの Paliaman から移住した。泥炭地で稲は育たない、キャシューナッツ、パイナップルは育つという。kayu puteh (*Melaleuca*、コバノブラッシノキ属) の自生らしい若木多い。

— 泥炭地帯にパイナップル売りの小屋並ぶ。

27.2km 小村、サゴヤシ、*baru(waru)*(*Hibiscus*、フヨウ属ハマボウ)目立つ。

28.0km 泥炭湿地に排水路を設けてゴム園、パイナップル畑を作る。ゴム園続く。

32.9km 丘陵に上がる。そこにもゴム園、高さ8メートル、既にタッピングする。

34.5km 小川を越える。砂利取っている。

36.5km 下る。*Melastoma* の多いヤブ。PU (公共事業省) がコンクリート製排水路を設けている。

38.5km 小川を越える、黒い水。カヤツリばかりの水田少々。女二人が鍬で畑の土を削る。

38.8km 村に入る、果樹多し。

39.2km 低い畦囲いの水田。

39.8km 小川を越える。水田散在、浅く湛水。ヤシ、果樹の屋敷林。家はミナンカバウ式屋根、コンクリート杭の高床家あり。

40.7km 鉄橋で Kampar Kanan 河を越える、幅150メートル、岸高さ3メートル。川で砂利取り、玉石取り。ブタ狩りに犬連れて行くハンター。

— 自然堤防地帯に水田、畑、ミカン。水牛5頭、また5頭、水田で放牧、草を食う。この集落群は地図を見ると Rantaubarangin まで40km 続く。

42.8km 水田に湛水部分あり。畑を起している。小川を越える。

44.5km 水田に3-4カ月経た刈り株。池を越えて村に入ると、ココヤシ、ナンカ (*Artocarpus*、パンノキ属パラミツ)、ドリアンの緑濃い木立。

45.8km Desa Kampar 村、家の屋根はミナンカバウ式、人の顔立ちもミナン顔。

— Pulaurambai 村

47.6km 水田広く、水牛 50 頭が放牧。稲は立っておらず、ミズアオイ、*Melastoma* が覆う。1 筆は 4x15 メートル程、畦 15 センチメートル、水溜まりが点在。稲作に不熱心な印象。バイクの男に聞く。

- 1 ゴムのタッピング、川で砂利取り、など他の仕事があるので、水田に専念しない。雨季作一作が普通。灌漑は不十分、水車もない。丘から出て来る小川の水を堰で分水して灌漑水源にする。苗代は今作り始めの時期、女性が鍬で地拵えをし、掘り棒や手で播種する。

普及員らしいが、多忙な様子、打ち切る。

茶店の茶のみ話の男たちに聞く。

- 1 車道近くの田は sawah (畦、灌漑排水水路を備えた水田) だが、遠く離れた田は rawah (自然の湿地林) だ。水路は 1965 年にできた。その頃は中に立木の多い paya (湿地的水田) が多かった。
- 2 雨季作。3 か月後に植え始める。苗代は水田に作る。粃を一晩水浸して芽出し粃にし、苗代に散播し、25 日苗を用意する。本田は、今の期間水牛を放牧し、わら・草を食わせる。これが結果的に蹄耕効果を生む。その後鍬で畦を整え、さらに畦周りに溝を掘って水をまわし、鍬耕作で地拵えをする。水牛に挽かせた犁耕もある。苗代を作り終えると、村人総出で水田を柵で囲い、水牛は水田から出す。水牛を持たない者は柵作りに出る必要ない。苗は手で植える。収穫は tuai (穂摘み具) や鎌で 2 月に行う。5 カ月種である。家族労働でまかなう。
- 3 減水期稲。二作目を行う場合は 3 月に始める。これは乾季作である。後背湿地にある水田は雨季の深水が減水して田面が露出するのを追って苗を植えたり、粃を播く。灌漑水路は山の小川から取水する水路を PU が作った。今、水漏れを修理中。
- 4 品種、耕作など。水田の伝統種は padi baya が一番旨い、padi putih, padi kuning, padi randucuba があり、pulut merah も多い。<pulut は円粒でねばいジャポニカ品種を指すので、そのほかは長粒のインディカ種を指すと思われる>。水稲以外に陸稲がある。品種は padi daratan は sekuning, putih, aremanyan などだ。Padi daratan の場合、掘り棒で穴を開け、苗を穴植えする。掘り棒で穴を開け、粃を播いた場合は padi tegalan という。この 2 種の陸稲は村の中で栽培する。自然堤防の高みや園地、高低のある水田の高みなどだ。<この話で明らかのように、水稲、陸稲の区分ははっきりしていない。自然堤防地帯の起伏に応じて様々な植栽様式がある。畦のある水田でも雨の少ない年には畑状態で推移するし、直播したり、田植えしたりする。畦のない畑状態の所でも雨の多い年は湛水して水田的に推移し、苗を移植する場合もある。>それ以外に焼畑陸稲がある。padi ladang といい、これは丘、山の林やゴムジャングルを抜開して播く。2 か月後に始める。林を開くとき、大木の下で鶏の供犠を行う。血を伐り株に注いで、お化けを追いはらう。私たちが所有者になったのだ、出て行



ってくれとの願いを捧げる。共食後、男が掘り棒で穴を開け、女が籾を播く。この際、特別の導師はいない。<ibu padi という言葉を使うので、以前は女性導師がいたと思われる>。収穫のとき、中身のよくつまった稲穂を探して刈り取り、来年の種籾用に、食用とは別に貯蔵する。

Padi ladang は3年間オカボを植える。最初に同時にゴムを植えるので、結果的にはゴム栽植地になる。ゴムの地方種は7年、改良種は5年でタッピングが可能。

経営水田面積は0.5から5ヘクタールまで。勿論土地無しもいる。家族10人までは1ヘクタールの水田で養える。ヘクタール当たり13kgの籾を使い、6.8トンの籾を収穫する。<この収量倍率は非常に高い>。

- 5 ほかの仕事。ゴム、ヤサイ、建材用の木材伐採、砂利取りなどの仕事がある。ゴムは値動き激しい。良い時は250-300Rp./kgだったが、今は180Rp./kgに下がった。Bangkinang に処理工場あるが、Pakan Baru へ持っていくこともある。Hutan marga (村有林)、tanah wilayah (入会地) から木を伐採できる。ただし、自分の家を修理するにはよいが、販売用に木材を伐採してはいけない。
  - 6 慣習法。Adat (慣習法) はミナンカバウの伝統が強いが、ninikmama (suku 母系拡張大家族の長) が tanah pusako (大家族の宗族地) を自由に処分できる、甥・姪の相続すべき財産を子供に相続するなどミナンの慣習法と少し違っている、あるいは変わりつつある。慣習家屋で年に1回宗族大会がある。様々な問題を慣習法に則って調整する。40人ほど集まる。ここの desa (村) には四つの suku (宗族) がいる。Kampai, Pilian, Lamor, Putapan だ。各 negeri (慣習郡) の各 suku から代表9人ずつが出席し、行政郡から4人の官吏が出席する。
- 48.1km 1カ月稲、田植え中の水田広がる。水路が続く。水牛15頭の放牧地。自然堤防地帯の高低に応じて水稲、陸稲、放牧地、ヤブがある。
- 51.0km 低みに1カ月稲の水田。
- 52.1km 河床で砂利取り。Negrilumbio。
- 52.6km 1カ月稲広い。
- 54.0km 陸苗代あり。これ自然堤防の高みに掘り棒で穴播き。低い畦で囲む。水牛3頭放牧。【写真4】
- 54.8km ミナンカバウ式の屋根の家、高床米倉ある。
- 55.1km 1カ月半の稲。
- 55.6km やや高い平坦地に水田、カヤツリのための水田もある。中に5メートルのサゴヤシが立ち並ぶ。
- 56.8km Airtiris 村。自然堤防のやや高みに水田広いが、稲は植えていない。1カ月の短稈稲(改良品種)が立つ水田点在。
- 57.8km 村の市たつ。
- 58.4km 水のない畦水田、雨季作の刈り株が立ち、かがしが残るが、全面未耕起。サゴヤ

シ立つ。

- 60.2km PU のコンクリート水路が走る。水田に 1 カ月稲が立つ。【写真 5】
- 61.2km 出穂した稲、雨季作の残り。起伏やや大となり、ヤブと水田混在。水田は 1-2 月稲。水路沿いにサゴヤシ立つ。小川越える。
- 61.8km 墓。屋根付き橋あり。パンダヌス立つ。
- 63.8km 丘陵にゴム林、谷に魚池。丘陵地帯。
- 66.7km 谷地田に若実り稲、乾期の早生か。村に入り、平床家、中国人墓目立つ。
- 67.3km 河床で砂利取り。
- 67.9km Bangkinang 村。小川越える。やや高い平坦地に 1 カ月稲の水田。村の市たつ。中位段丘に 1 カ月稲広い。
- 71.6km Salo 村、白土。水牛 2。
- 72.4km 小川越える。軍隊兵舎。緩波状丘陵。薄い腐植質土の下に白土。平坦台地に 40 センチメートル高畦の水田、中位段丘の裾に 2 メートル幅の水路を設け、それで灌漑。田面が傾斜した水田もあり、中に木株が多い。中位段丘は 20 センチメートル厚さの腐植質表土の下に白土、*Melastoma*、コシダ、竹ヤブ。
- 75.6km 平床家の多い村、水牛 2、ランブータン多い。
- 77.2km 鋸状山地遠望、多分石灰岩。水田に 3 週間稲。畑を柵囲い。
- 78.4km 旧河床跡の低地水田に稲なし、水牛 5 頭が草を食う。果樹の多い平床家の村。
- 79.3km 小川越える。村、水牛 3 頭歩く。谷地田で水牛が草を食う、稲はなし。
- 80.6km Kuok の村、市がたつ。
- 82.2km 緩波状丘陵を上がって平坦台地、そこにランブータン園広い。水牛 5 頭放牧。
- 84.1km 小川越える。平床家の村、Rantaubaringin、果樹多い。ここ Ujungbatu への分岐点<地図ではフェリーがある>で、飯屋集落。飯を食う。直径 75 センチメートルの丸太 (kayu bara 不詳) 満載したトラック多数止まる。Ujungbatu から Pakan Baru へ運ぶ。
- 85.5km Kampar Kanan 河越えて左岸へ、幅 200 メートル。低山に低木林。川深く水緩やかに流れる。先述の鋸状山地を刻む。斜面長く、谷深い。
- 91.1km XIII Koto Kampar の表示<これ Kecamatan 名>。大木言う、Solok からの移住先か、Solok を XIII Koto というと。
- 93.4km 小村、タロイモ多い。平床家目立つ。急峻な山腹にゴム林あり。峡谷地帯。
- 95.3km 小川越える、谷川。平床多い村、Pulaugadong 村。ゴムブロック運び。斜面はヤブと低木林。
- 99.7km 7 年生ゴム園。【写真 6、7、8】
- 600.4km Kampar Kanan 河越えて右岸へ、川幅 100 メートル。石灰岩露出。
- 602.3km Muaramahat 村。
- 2.5km 右折。右に Kamapar Kanan 本流。青い目の女性 3 人。

- 4.1km 小川越える。ゴム林抜開中。植え替え。  
 — Tanjungalai 村。
- 5.7km 村。
- 6.4km 河を双胴フェリーで越える【写真9】、幅 50 メートル、水透明。ゴムブロックを川  
 水に漬けている。水牛 10 頭を谷地田に放牧。平頂山地に抜開地広い。大規模プロジェ  
 クトの様子。
- 13.0km 村、陸稲出穂。右の川岸にミカン。
- 14.1km ここでまた河谷低地開けて低い河岸段丘に短稈種の水田広がる。今実りの時期で、  
 鎌で刈り、叩きつけ、踏みつけ脱穀中。8 年生ゴム林の林床にも陸稲。Batubersurat  
 村、名前は石刻文の意味、多分古い時代に出土事例があったのだろう。平床家多い。
- 19.4km 刈り中水田、湛水している。鋤で耕起中もあり、雨季作準備。Desaponkai。ミナ  
 ンカバウ型の集会所、コメ倉。  
 — 谷地田を越える、鋤で耕起中あり。
- 20.4km 丘陵へ上がる、ゴム林、ゴムジャングル。
- 22.1km 下って河岸段丘、ミカン園多い。谷地田ある。
- 23km Kototuo 村。
- 23.6km 右に本流、岸で sampang (小船) 作り。その男に聞く。【写真 10、11、12】
- 1 航行、上りは Suburuan まで、下りは Talatakbuluh まで 1 日、さらに Langgam ま  
 でも行ける。Muaramahat まで 2 時間。
  - 2 sampang 作りの職人は kapak (斧)、parang (山刀)、gergaji (鋸)、kutam (カン  
 ナ)、moko (金槌) 使って 3 日間で 1 隻作る。舷側板の継ぎ目は galo-galo (ダマール)  
 を詰める。ダマールの木は 5-6 キロメートル奥にあり、自分で採取する。
  - 3 sampang は 2-8 トンの大きな船を指し、今作っている小さな船は jaru という。jaru  
 は村に数百隻ある。sampang の部材名称は、tajuk 側板肋木 11 本、pangam 底肋木 4  
 本、balunka 舷側板片側 3 枚、badan 底板 1 枚、kumudi 舳先<竜骨はない>。
- 25km 村の市たつ。あちこちで jaru 作り。平坦河岸段丘にミカン園多い。ゴムの伐り替  
 え畑広い。ミカンを出荷するトラック多い。水牛 30 頭、20 頭放牧。
- 30.4km Muaratakus 村。高床家の大村。台地にヒンドゥー寺院遺跡あり、復元中。一辺  
 約 80 メートルの煉瓦塼に囲まれた敷地に寺院址が 4、他に煉瓦焼き場址という土塁 1。  
 復元作業主任の男に許可を得て見回る。【写真 13、14、15、16、17、18】
- 1 第 1 塔 Candi Mahligai。ほぼ復元終わっている高さ約 15 メートルの塔。基壇 2 回隅  
 切り、その北面に後退壁を設け、中央に階段。身舎下部は壇を設け 3 回隅切り、身舎  
 上部は円筒形、その上に円筒形屋蓋。基壇、身舎下部は水平な線と縦の線がきれいに  
 通り、元来の姿に近い復元と思われる。身舎上部の円筒形は珍しい。ほとんどその例  
 を知らない。オランダ人の創作か？円筒形屋蓋はありうる。
  - 2 第 2 塔 Candi Bungsu、第 3 塔 Candi Palangka、第 4 塔 Candi Tua は基壇、下部身



舎に煉瓦積みが残るが、崩壊著しい。

- 3 第4塔は切り石を一部使用。
- 4 塀は7メートル幅、2メートル高さ、下部には丸石を詰め、上に赤土を盛り、煉瓦積む。
- 5 土塁はすぐ川岸にある。岸の高さ7メートル、川面近くにオランダ人の掘った井戸跡が残る。
- 6 作業主任の話。煉瓦作りのチャンディは11-13世紀という。Pallava文字の碑文が少し出る。ゴム林の中へ入る。岸から200メートル入ったところに高さ1メートル程盛り上がった直径10メートルの塚があり、煉瓦組みが残る。これも寺院遺跡だろうという。

Pakan Baru へ戻る。

## 補足記録 Payakumbuh-Pakan Baru

1981年1月5日

Payakumbuhの町から北へ。平坦盆地

Pakan Baru (PKB) へ183km 標識 深田で刈り中、実り、6週稲の除草中など、作期さまざま。村はアレンヤシ (*Arenga pinnata*、サトウヤシ)、ニッキ、ドリアン、ランブータン、マンゴスチンの濃い緑に覆われる。

PKB173km 水田、cangkulで起こして足で踏み、地拵え。4-8週の稲もある。

PKB169km Teranbulang、溪谷に入る。

PKB162km 平坦尾根へ上がる。

PKB157km 赤褐色土。Gambir (*Uncaria gambir*、ガンビールノキ)の葉を干している。

サネカズラに似た灌木、その葉を集めて大きな釜で煮て煮出し汁を煮詰め、タンニンの塊とする。これを阿仙薬といい、皮なめし、染料、清涼薬品にする。〈阿仙薬はゴムが入る前、スマトラの重要な輸出品だった〉。

— Sopang村、ドリアン、ナンカ、バナナ、ミカン。

— Pankarangkotabaru村。雨季作の稲を田植え中、またcangkulで耕起、草を踏み込み、代掻き中。

— 河越える。前回に比べて水位下がっている。

— 自然堤防にバナナ園、陸苗代多い。

PKB128km Kampar Kanan河沿いに走る。ドリアンの大木多い。川水やや黒い。山腹斜面にシダ広い。ニッキ、ゴムの園地目立つ。

PKB122km Gunungkaya村、ココヤシの頂芽取る、ヤサイにする。ランブータン、ドリアン、ナンカの緑。

— 小川越える。右にKampar Kanan河、幅60メートル。村にバナナ、cengke (*Syzygium aromaticum*、チョウジ)、ランブータン園多い。

— 小川越える、砂岩露出。

PKB118km 長い山腹斜面、シダ原を開いてcengke園新植。

PKB117km ヤブにキョウチクトウ。

PKB116km 河谷にチョコレート色の頁岩。

PKB114-109km 25度の斜面に高木ジャングル、焼畑陸稲のサイト点々、焼畑跡地はランアランとヤブ。

PKB105km 自然堤防上に長い村。小川越える、その水を引いた魚池。

PKB104km ゴム林。

PKB103km 低い峠、薪、ロタン (*Calamus*、トウ属)取り。

PKB101km 20度の斜面に焼畑、陸稲、ケイトウを植える。止まる。サツマイモ、キャッサヴァ、ランブータン、ミカンも植わっている。陸稲は一株に分蘖が6本ほどだが、ヨ

シのように背が高い、老人に聞くと、padi kociak という品種で、今6カ月で若実り。もっと上の方はまだ出穂していない。ハトムギもある、anjalai という (*Coix lacryma-jobi*)。これ食用にする。この老人は別の焼畑に cengke を千本持つ。

PKB100km リアウ州に入る。

PKB99km キョウチクトウの多いやぶ、このあたり土砂崩れ多発。

— Muaramahat 村。Mahat 河越える、左に Kampar Kanan 河。狭い河谷低地にココヤシ、ゴム園、川沿いに魚池多い。鮮橙色の土、砂岩由来。

— Kampar Kanan 河越える。岸崖に露岩。川岸の斜面にも陸稲植える。

Bangkinang (BKN) へ27km 紫赤色の土が斜面に露出、頁岩由来。

BKN26km Pulaugadong 村。

BKN24km ゴム園、下にコーヒーを混植。村に魚池多い。緑濃く、木々にサルオガセ着生。

記録飛ぶ

Bangkinang 郡。

PKB83km Rantaubaringing で Kampar kanan 河を越える。飯屋集落。自然堤防、河岸段丘の褐色土に陸稲広い。川沿いにランブータン、ココヤシ、cengke 多い。

PKB79km 緩波状丘陵になる。

— Kuok 村、白土。低地には1週間稲。

PKB77km 比高3メートルの台地、そこにミカン、ココヤシ園地広い。

PKB75km 台地に陸稲と果樹、放牧地、低地に水田、2週間稲。アリ塚目立つ。

PKB73km 起伏やや大きい台地、低い所は水溜まり、そこに3週間稲立つ。ランブータン、ドリアン売り多い。土、腐植質疑似グライ。

PKB72km Salo 村。白い砂岩露出。

PKB69km まで白土続く。

PKB68km 台地の低みに1カ月稲、水溜まりあり。

— Kampar の集落離れて、右に赤褐色土の丘。左の平坦低地は4週間稲。

PKB64km 右の波状丘陵に赤土。

— 左はすぐ Kampar Kanan 河、褐色の濁流が河幅一杯に流れる。

— 平坦低地に水田、3週間稲の中を除草中。サゴヤシあり。右の段丘はゴム林広い。

PKB55km 自然堤防の高みの3週間稲を cangkul で除草中。ここ Airtiris。止まる。

女たちに聞く。

1 6カ月に収穫する伝統品種。10-11月に植え、3-4月に収穫する。5月から7月まで草が茂る。8月に草刈り倒し、cangkul で耕起、地拵え始める。9月-10月に雨降り始める。苗は手で、また堅い土では掘り棒で植える。除草は3回行う。一回目は1月、50日おいて二回目、出穂前に三回目。すべて cangkul でやる。tuai (穂積具) で収穫し、穂束を足で踏んで脱穀する。粃で蓄える。

2 苗代は二通りある。一つは水田の少し高い所を代掻きして灰を撒き、粃を散播する。

20 日苗を仕立てる。このやり方は改良品種の場合だ。伝統品種の場合は陸苗代を作る。これは杵で穴を開け、30 粒ほど粃を播く。1 カ月苗を仕立てる。粃は風選し、むしろにおいて一晩水に漬け、芽出しする。

- 3 オランダ時代<昔はの意味だ>は犁、マグワ、均平板をウシに引かせて地拵えをした。日本軍が男を連れて行ったので、女のみではウシの操縦が難しく、cangkul でやるようになった。
- 4 水田は 100 年以上前からある。水路は新しい。水源は湧水と雨水。この水田は昔は林で土が深かったが、今は床土が生じて堅い。

PKB54km 河の岸 1 メートル下は河水、増水している。自然堤防に村、村にはココヤシ多い。

— Desa Rumbia 村。

PKB51km Kampar Kanan 河を越える。

- 自然堤防の間の旧河床跡低地は水没し、自然堤防でも裾の方は水没。Lubak<雨季、深水で浸水する後背低地を指す>だ。

PKB50km 草畦の水田あり、一筆はやや小さい。

PKB48km 緩波状台地に上がる。高い所は赤黄色土。平坦になると疑似グライ土。

— Desa Kampar 村。

- 自然堤防の褐色土に掘り棒で苗を植えている。止まる。

- 1 自然堤防の高みにある村から南へ緩く下がる地形で、高低に応じて様々な栽培方法がある。自然堤防に近い高みに陸苗代を設ける。その近くは畑状態の土地に掘り棒で穴を開け、粃を直接数粒播く（点播）。道を越えた南側は低くなり、湛水している所は穴を開けて陸苗を植える。その中でも高く畑状態の所は穴を開けて粃を点播。点播した所も湛水が深くなってくると苗を挿植する。水田と畑がモザイク状に入り混じっている状態だが、雨季にはどこも稲を植える。その稲は padi kanok といい、水稻、陸稻両方を兼ねる。

- 2 畑状態の部分で稲の間の除草をする女たちは、変わった道具を使う。全体の長さ 1.5 メートル、柄の下に長い二股の鉄支柱を延ばし、両支柱の末端に 30 センチメートル長の鉄刃がはめてある。この道具は bangku という。これを cangkul のように持って地表の草を削る。<これは鋤というより鋤で、土や草を削る機能に特化し、土を起こすことはできない。系譜的には、14 世紀中国の『王禎農書』に記載される鋤鋤に由来すると思われる。それが変化した形の、Hommel が報告する中国で多用される草削り器は bangku とほぼ同形だ>。

PKB40km ミカン園、下に 2 週間稲。Desa Tambang。増水した河水で水没地広い。

PKB39km 高みの水田に植えた稲。Kmpar Kanan 河越える。幅 120 メートル。水やや黒い。

PKB38km 旧河床跡低地—自然堤防の高みが繰り返す。旧河床跡低地はイグサ、シダの湿地、自然堤防はゴム林、村、果樹。

— 道沿いに排水水路掘る。泥炭地帯。

PKB36km イグサの湿地がゴム林に漸移。

PKB34km 緩波状丘陵。

PKB33km ゴム園。

PKB32km ゴムとココヤシの苗圃。泥炭地に長いパイナップル園を開く、両側は湿地林。

— 左はゴム園になる。

PKB30-23km 泥炭地と丘陵にヤブ広い、Melastoma、キョウチクトウ、シダ、中にパイナップル園。

— Desa Simpanbaru。

夜。

PKB6km Pakan Baru の市域に入る。



別紙

【経 歴】

私の経歴等は以下の通りです。

1940年神戸生まれ。1963年京都大学農学部農芸化学科卒業。1968年京都大学大学院農学研究科中退、京都大学農学部助手、1978年京都大学東南アジア研究センター助教授、1988年同教授、1998年京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科教授。2003年退職。京都大学農学博士、同名誉教授。現在、NPO 法人平和環境もやいネット理事長。

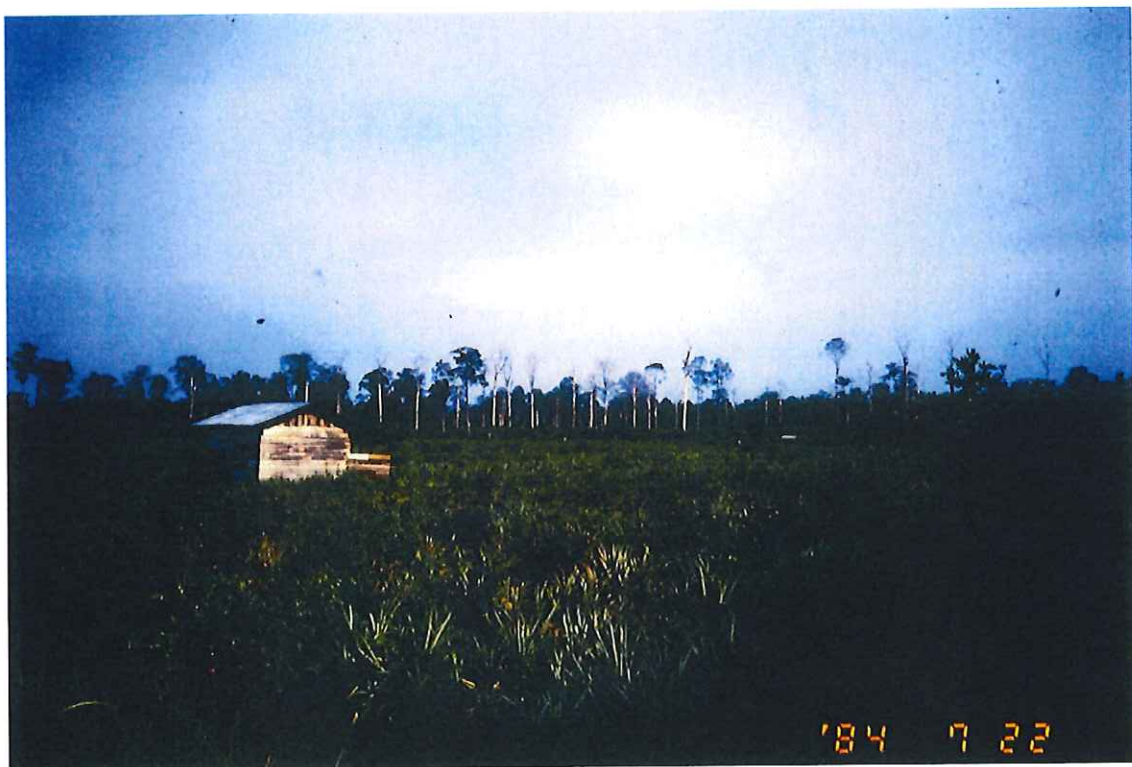
著書：『インドネシアの低湿地』（1992年勁草書房）、『中国先史・古代農耕関係資料集成』（渡部武と共編著、1993年京都大学東南アジア研究センター）、*Coastal Wetlands of Indonesia: Environment, Subsistence and Exploitation*, Kyoto University Press, 1994、『事典東南アジア：風土・生態・環境』（共編著、1997年弘文堂）、『植民地支配と環境破壊』（2001年弘文堂）、*Ecological Destruction, Health, and Development: Advancing Asian Paradigms*, co-edited, Kyoto University Press・Trans Pacific Press, 2004。  
『民族生態—從金沙江到紅河』（尹紹亭と共編著、2003年雲南教育出版社）。

訳書：『中国農業史』（フランチェスカ・ブレイ著、2007年京都大学学術出版会）、『ホーチミン・ルート従軍記』（レ・カオ・ダイ著、2009年岩波書店）。

【写真1】



【写真2】



【写真3】



【写真4】





【写真5】



【写真6】





【写真7】





【写真8】





【写真9】



【写真10】





【写真1 1】



【写真1 2】



【写真13】





【写真14】





【写真15】



【写真16】



【写真17】



【写真18】

